

Saiyu Fund

[西遊基金]



Choho80号



寄附に込める想い

諦めることなく有意義な学生生活を送ってほしい

2015年 経済学部卒業 **岩城静香** さん(旧姓:村田)

1回生の終わり頃、大学の語学研修プログラムを利用してオーストラリアへ短期留学しました。この留学が、私の人生の方向性を決める大きな経験となりました。若い学生の皆さんには、勉強

や研究はもちろんですが、留学やボランティア、多くの人と交友関係を築くことも結構です。時間もお金も捻出できる今しかできないことを経験して欲しいと思います。

その一方で、当時の私も充実した学生生活を送るためには資金が必要でした。教科書代や趣味に使うお金、就職活動が始まると交通費も負担になり、アルバイトを頑張らなくてはやっていけず、肝心の学業を疎かにしがちでした。学業に打ち込みながら様々な経験ができるのは、大学生の時だけです。社会人になると、例えばお金があってもやりたいことをやる時間を捻出することが困難になります。もちろんアルバイトでもとても良い経験はたくさん得られますが、限られた学生生活の中で、資金を稼ぐためのアルバイトだけに時間を使って欲しくない。現役の長大生の皆さんには、なにか一つ諦めることなく充実した学生生活を送って欲しい。大学を卒業した私の心には、ずっとそんな想いがありました。

私のような若い世代にとって寄附を

するという行為は、まだまだハードルが高いかもしれませんが。それでもなぜ私が寄附をしようと思ったのか。それはChoho80号で紹介されていた、ウクライナからの留学生の記事や、コロナ禍で困窮している学生さんの記事を読んだからです。今、切実に困っている人たちがいる。「今の子どもは大変だな」と頭で考えているだけではダメだ、行動に移さなければという考えに至ったからです。

寄附を続ける理由はもう一つあります。私が勤務する会社は、つねに人材不足に悩まされています。たくさんの経験と学びの機会を与えてくれた母校。これからも優秀な人材が育つ環境であって欲しいと思っています。そしてできるならば、優秀な卒業生の皆さんの中から、弊社を選んでくれる人が一人でも出てくれると嬉しいです。



岩城さんの勤務先は、通信大手のJCOM株式会社。営業からシステムエンジニアに転身した努力家です。趣味はフィギュアスケート観戦。大学時代には関東、関西の2会場で開催されたソチオリンピックのパブリックビューイングを企画・開催した実績も持ちます。

亡き父の名を母校に遺す

村岡雄一郎 さん

私の父・村岡陽一郎は、1966年に長崎大学経済学部を卒業しました。卒業後、野村證券に入社し、最終的にふるさとの佐賀を拠点に仕事をしてきたものの、74歳の時に出張先で急逝しました。父の死によって、父が全力で生きたことに対して共感・尊敬の念が

湧きました。何かの形で遺す方法を模索していたところ西遊基金の存在を知り、寄附者の名前を銘板に刻んでいただけということで、父の名前で寄附を始めました。

父は大学では特待生だったようで、私が小学生のころ、奨学生手帳らしき

ものを見た記憶があります。当時実家は経済的に余裕があったとは言えず、奨学金給付で非常に助かったでしょう。その恩恵は次世代の私も受けたいと言えます。かつて父が恩恵を与った長崎大学には、今度は父に代わり私がお返しする番と思っています。

2年前に文教キャンパスを訪ねましたが、片淵キャンパスは今回が初めてです。60年前に、とても洒落た校舎と趣のある土地で父が学んでいたことを想像できます。父が私に長崎大学へ来るように呼んだのだらうと思うと感慨深いです。

出来る限り父の名前での寄附を継続する予定ですが、日本の学生のために使って欲しいと思っています。自分の得意をとことん伸ばしエッジを立て、将来社会に貢献していける学生の支援に使っていただければ嬉しいです。父は父の人生を一生懸命頑張って生きたので、同じような志のある方に使っていただければ供養にもなるでしょう。



今回、お話を伺うために片淵キャンパスにお迎えしました。母校や縁のある先へも寄附を続けられているそうです。「お金は道徳心を持って動かすべきで、お金をどう使うかは人生そのものと思っています」。



経済学部を卒業した頃の村岡陽一郎さん。上京前に母と撮影した1枚。



西遊基金の銘板には、今回寄附された村岡陽一郎さんのお名前も顕彰されています。



長崎大学サッカー部

長崎大学サッカー部 廃部の危機!?

1962年創部のサッカー部は、2022年度に60周年を迎えた歴史ある部。かつては九州大学サッカーリーグ1部に所属した古豪です。

今年度は広島に遠征し、広島大学体育会サッカー部と「平和親善試合Peace Match」を開催し、「平和への想い」を発信する活動も行いました。

しかし、現部員は28人。うち13人が4年生で、これからの部員不足と部費不足が悩みです。いずれは長崎でPeace Matchやリーグの試合を開催し、大学や地域を盛り上げ、長崎に好循環を生み出したい! 子どもたちの憧れるお兄ちゃんお姉ちゃんでありたい! と頑張っています。



副部長 経済学部4年 松尾龍征さん(左) プレーヤー 経済学部4年 板橋蓮さん(右)

お笑いサークルCCC

年間来客数 1000人を 達成したい!

CCCは主にライブを通じて、長崎から日本中をお笑いの力で笑顔にするために日々頑張っております! 大学内で単独ライブを開催するほか、M-1グランプリに出場したり、県内のイベントにも出演したりしています。最近では、他大学サークルとの合同ライブも開催しました。ライブをもっとたくさん開催して、皆様にたくさんのお笑いを届けたいです!

薬学部1年 申間弥和さん(上) 経済学部1年 清水郁弥さん(下)

長崎大学全学硬式テニス部

目標は全日本大学対抗 テニス王座決定試合1部昇格!

私たちは男女合わせて14人で週4回活動しています。1部昇格を目指して挑んだ今年の王座決定試合では男子2部リーグ2位、女子2部リーグ3位という悔しい結果に。今は1、2年生が中心となって次の大会に向けて頑張っています。しかし、長崎では試合がほとんどなく、県外の大会への出場も移動費の負担が大きく参加を見送らざるを得ないこともあります。もっと多くの試合に出て、強くなりたいです!



長崎大学総合診療 ぶらいまりけあサークル「そぶら」

日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会で発表したい!

設立3年目の新しいサークルで、へき地離島医療・家庭医療・公衆衛生・国際医療・臨床推論などを日々学んでいます。毎年、学術大会での発表や、離島・へき地訪問実習を行っています。移動費や宿泊費の負担が大きく苦労しています。活動を通じて長崎から総合診療を盛り上げ、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療体制づくりに貢献したいです! ご支援よろしくお願いします!



長崎空き家再生 PROJECT CRANE

空き家リノベーションを アップグレードしたい!



私たちの主な活動は空き家のリノベーション、改修した空き家のイベント貸し出しスペースとしての運営管理、地域住民との交流を目的としたイベントの開催です。

その他にも地元の中学生や高校生に、空き家問題に関する講演もしています。今後も地域活性化貢献に向けて活動を強化していくため、空き家リノベーション、瓦屋根の補修、空調設備の設置、イベントの初期費用へのご支援をいただけないでしょうか。

助けて先輩!

私たちがサークル活動をする中で困っているのは資金不足。時間があってもお金がない、資金があればもっといろんな挑戦ができます。日々悩みながら活動しています。だから先輩の皆さん、私たちに助けてください!

※長崎大学では、学生団体への支援を受け入れるためのサークル活動支援基金を設けています。

サークル応援サイト



環境科学部 3年 坂口樹さん(左) 多文化社会学部 4年 堀田幹菜さん(右)

女子アイスホッケー部

全国大会出場を目指す!!

女子アイスホッケー部は2001年に創設されましたが、長崎県内のスケートリンクは、2010年に、施設の老朽化により閉鎖されてしまいました。

そのため現在は、工夫をこらして陸上でインラインスケートを履いての練習や筋トレ、体力作りなどを行っています。氷上での練習は長崎大学文教キャンパスから車で片道2時間ほどの福岡県久留米市のスケートリンクで行なっていますが、11人と少ない部員数では、移動費やリンクの利用費の負担は大きいです。

全国大会出場を目指して、もっともっと、氷上での練習をしたい! 部員数を増やしたい! 歴史ある長崎大学女子アイスホッケー部を守りたいです!



東京交流会を 令和7年2月6日(木)に 開催します!

いち早く東京交流会の参加申込のご案内をお知らせします。ぜひ、校友会メールマガジンにご登録ください。



西遊基金

「西遊基金」は、長崎が長年にわたって培ってきた個性と伝統を基盤に、地域の発展から地球規模の課題まで、種々の問題を解決するための傑出した人材育成を目指した、長崎大学独自の修学支援、さらに教育・研究の幅広い支援を目指した基金です。 TEL:095-819-2155